

同朋オープンフォーラム報告& 沖縄修学旅行



同朋学園は、親鸞聖人を宗祖とする真宗(浄土真宗)の御教えを大切にした学園です。

親鸞聖人は、共に生きる目的を追求する仲間を「御同朋・御同行」と呼ばれ、区別することなく仲間を大切にされました。

その親鸞聖人が敬われた聖徳太子は、十七条憲法の第一条で「以和爲貴(和を以って貴しと為す)」と教諭しました。

この「和」とは、^{やわらび}調和・^も相合・^{とうと}相和のことです。これを成すには「相手を敬う心」が必要です。

他者とのかわりの中で、あらゆる「差異(ちがい)」を認め合い、それぞれが輝くような豊かな関係を築く。

親鸞聖人の「同朋」と聖徳太子の「和敬」をもって「共なるいのち」を生きる。

これが本学建学の精神である「同朋和敬」です。

卒業おめでとう。
今日、この日を迎えられることを心から嬉しく感じています。
君たちと縁あって出会うことができて感謝します。
3年間粘り強く登校したことに感謝します。
どんなときも話を聞いてくれたことに感謝します。
一緒に笑い、時には一緒に悔しがってくれたことに感謝します。
仲間を大切にしてくれたことに感謝します。
18年間、ここまで立派な姿に、ていねいにていねいに育てていただいた保護者のみなさんに感謝します。
大切な時間を分かち合い、残念ですがお別れのときがやってきました。
人を大切にしてください。人生を大切にしてください。命を大切にしてください。
ここまで成長したら誰にも頼らなくても生きられます。振り向かないで前に進みましょう。ただ、ちょっと振り返ってみたいときには同朋高校に帰ってきてくださいね。

301担任 佐野 将史

自分の直感に正直になってください。
自分の直感に全力を注いでください。
自分の直感に傷つけられてください。

そして、自分の未熟さを楽しんでください。

302担任 楳木 振一郎

卒業おめでとうございます。
人との出会いとは不思議なものです。1秒に2人と会ったとしても、一生のうちに世界中のすべての人と出会うことはできません。一つひとつの出会いには偶然の「奇跡」だと私は思います。これから先もいろんな出会いがあるでしょう。人を大切にすれば、自ずと人に恵まれるものです。縁を大切に、人を大切に。前向きに素晴らしい人生を!

303担任 川崎 菜美子

同朋高校にはいろいろな人がいます。部活をがんばる人、勉強をがんばる人。学校外の大人の社会に近い環境で活躍している人もいます。そしてそんなメンバーが集まって多くの行事をおこないました。それは行事の中で「いろいろな人」について学んでほしい、そんな想いがあったのです。
卒業生のみなさんは、在学中にどれだけ多くの人と関わりましたか?これからは高校での経験を活かして社会の中で多くの人と繋がり、自分の中の世界を広げていってほしいと願っています。そして、その先の幸せを掴んでください。

304担任 岡田 暁彦

道 未来へつづく 卒業生へのメッセージ



3年生のみなさん、卒業おめでとう。
3年間の高校生活はあっという間だったのではないだろうか。初担任の私にとって初めての卒業生であるみなさんとの思い出はたくさんあります。これからさまざまな未来へ向かって歩んでいきますが、「よく学び、よく遊び」ながら、成長した姿を見せに、また困ったときには相談に来てください。私たちは、ずっとみなさんの担任であり、応援団です。

305担任 大泊 和将

「出会い」もあれば「別れ」もある。それが人生です。ただ「卒業」は、永遠の別れではありません。悲しむことはありません。同朋高校で過ごした3年間、たくさんの学び、成功、失敗、喜怒哀楽の詰まった思い出を自分の経験値にプラスし、それぞれ次のステージへ胸を張って進んでください。

「有言実行」
これは私が常に大切にしている言葉です。自分の甘えを捨て、自分に厳しく突き進む。誰も甘えたいとき、逃げたいときはあります。そこで自分の甘さに気づき、自分に鞭打ちながら乗り越えることができるか。目指す目標、夢があるのなら、このことを常に意識し日々過ごしてください。

306担任 尾崎 陽一

人は変わる生き物、と言っていた人がいます。意志と心掛けて変わるのとは人間だけ。自分の枠を早々に決めてしまわないで下さい。ものの感じ方も、行動パターンも、性格だって、まだまだこれから創られていくでしょう。理想と希望と期待を胸に、出会いと、挑戦や失敗を繰り返し、今これからはあなたは変わっていく。楽しみですね。卒業おめでとうございます。

307担任 山中 裕香子

「人間到處青山あり」とは、中国の古い詩の一節です。人間とは「じんかん」と読んで、「人の住む世界」のこと。「青山」とは、樹木が生い茂った山の意味から転じて、「自分の死に場所」「骨を埋める場所」というような意味を表します。何を一生の仕事とし、どこに自分の居場所を見つけるか。それは偶然の出会いによるのかもしれませんが。どんな場所でも、よい仲間を見つけ、そこをすてきな場所「青山」にして下さい。

308担任 三井 陽子

おめでとう
せっかくですから、この機会に
「他力本願(本願他力)」
「ともに生きる—いのちのつながり」
について、考えてもらえれば、幸いです。
「同朋和敬」
「今、いのちがあなたを生きている」
読んでもらって、有難う。
合掌

309担任 柏原 良教

3年生のみなさん、卒業おめでとう。長いようで短い高校生活が終わりを迎えました。目標に燃えた3年間、さまざまな場面での活躍を目の当たりにしてきました。そんな君たちに最後伝えたいことは、「挑戦なくして人生なし」です。高校生活よりも長い人生の中で大切なことは、自分の可能性を信じ学び挑戦し続けることです。物事は諦めない限り、道は切り開けていくものです。どんなタイミングやきっかけでも、人には自分自身を変えるチャンスが必ずあります。ぜひそのチャンスを掴んで幸せな人生を歩んで下さい。最後に君たちと過ごした3年間を忘れない。本当にありがとう。

310担任 伊吹 酬平

3年生のみなさん、卒業おめでとうございます。高校生活での3年間で様々な体験をし、様々なことを感じたと思います。「高校生」は卒業という形で終わりとなりますが、この3年間で体験したことが、これから歳を重ねていく中で「こうだったのか」と気づくことがいずれあると思います。みんなに出逢えたこと、本当に嬉しく思います。ありがとうございました。

311担任 小川 幸子

Schedule 〈行事予定〉

2月	
20 土	卒業式
22 月	見真の日
24 水	2年生音楽科学年末考査(～3月1日)
3月	
2 水	学年末考査(～8日)
4 金	2年生音楽科修学旅行(～10日)
11 金	1・2年生学年行事
15 火	進級判定発表
18 金	修了式
4月	
5 火	在校生登校日
6 水	入学式
7 木	始業式

平成27年度「愛知県私立学校経常費補助金」の交付金額が決定しました

保護者のみなさまには、ご清祥のこととお慶び申し上げます。平素は、本校の教育活動にご理解ご協力を賜りましてありがとうございます。また、助成金署名や地域ごとに開催された「地域別県民文化大祭典～オータムフェスティバル」など、私学助成拡充の運動にご尽力いただいたこと厚くお礼申し上げます。

平成27年度の同朋高等学校への愛知県私立学校経常費補助金交付額が下表のように決定いたしましたので報告いたします。みなさまのご協力により、生徒1人あたりの県の補助単価が国財源措置単価まで引き上げられ、本校への教育評価分も含めると、交付金額は1人あたり17,786円の増加となりました。このことに感謝申し上げますとともに、教育条件の一層の充実と財政の安定化に引き続き努力してまいる所存です。

今後とも、ご支援・ご協力をよろしくお願い申し上げます。

●同朋高等学校「愛知県私立学校経常費補助金」交付決定額

年 度	一般補助金	特別補助金	事務費	総 額	生徒数	一人あたり補助額
平成27年度	445,487千円	19,764千円	973千円	465,064千円	1,225人	379,644円
平成26年度	411,689千円	15,477千円	882千円	426,992千円	1,180人	361,858円

二〇二号を新たな出発点に

校長 井戸 裕久



一九七五年五月一日の創刊から四〇年。「学校通信」は同朋の発展の歴史とともにありました。創刊の頃は「新生同朋」のスタートの時期です。現在ある同朋の基本フレームはほぼすべてこの頃に導入されたのです。そのため「学校通信」も創刊当時は「新生」の息吹を強く感じさせる内容となっています（当時については本校編集発刊の「五〇年の歩み」に書かれております。ご希望の方はお知らせください）。

「すべての生徒に生きる力と喜びを」のスローガンで始まった「基礎学力検定」の取り組みが一九七七年に始まり、翌年からは学習合宿（当時はオリエンテーション合宿）が取り組まれるようになりました。

基礎からの学力づくりを目指すことと並行して、質の高い文化をとの思いから文化祭の改革が一九七六年にありました。学年ジャンル制をとり、クラス企画として模擬店やおけけ屋敷を行うのではなく、高い文化水準を追求したい、いわゆる「同朋型文化祭」の取り組みが始まったのです。

併せて生徒の活動を活性化させるため、一九七七年より学年単位の「クラス連合」（通称「クラ連」）が組織され、リーダーを育てました。そのクラ連からの要望や取り組みがあつて、卒業式も現在の形態に改められたのです。

また、PTAの分野としては、一九七七年より、地域懇談会の取り組みが三地域で始まっています。翌年には全十一地域での取り組みへと進化しています。

私はこういった激変の一定進んだ時期に本校に赴任しました。まだ創成期の熱気の残る時代だったのです。この時期は、まるで地球の古代カンブリア紀の生命大爆発のようなもので、「さながら地球上が生命の大実験場」であつたように、「さながら学校が教育の大実験場」であつたと言っても過言ではありません。先人たちは、自ら新たな提案を次々と出して、総力で取り組んできたのです。

さて、現在はどうかでしょうか。私は当時と同じような息吹を感じています。これらの時代は私たちより若いスタッフが時には侃々諤々（かんかんささ）の議論を通して「新生同朋」を目指し、学校を創りあげる時代です。その意味で学校通信「二〇一」号を機に、「学校通信」がリニューアルされるのと同じくして、「新生同朋」の創成期が始まることに巡り合わせの妙を感じもします。

新生の息吹がさらに広がることを大いに期待したいと思います。

「ソウゾウ」のひととき ～同朋オープンフォーラム2015～



保護者・生徒・教員307名が「同朋の教育」に携わった！

2015年11月7日（土）、同朋オープンフォーラム2015を実施しました。前年度の反省や改善点を活かし、保護者の意見を取り入れ、生徒も実行委員として準備してきた「同朋オープンフォーラム」。今年度の挑戦は、教科別特別公開授業でした。

いろいろなこと（授業）に挑戦しました

国語、社会、数学、理科、英語、商業の6教科で、保護者参加体験型の授業に取り組み、若い教員を中心に、保護者・生徒がより豊かに学べる仕掛けを考えながら、「同朋高校での授業実践」「目指したい授業」をつくり上げていきました。

「ことば」や「言外」でのコミュニケーションの豊かさを追求した国語の授業。タブレットを使用しながら情報を捉え、仲間とともに「考え」をつづっていく社会の授業もありました。ゲームを通して理論を考える数学や、さらにそこに発表を加えた英語の授業。ウシガエルを解剖する中で生命の大切さを体験していく理科の授業、保護者・子どもの世代で一緒になっ

併せて生徒の活動を活性化させるため、一九七七年より学年単位の「クラス連合」（通称「クラ連」）が組織され、リーダーを育てました。そのクラ連からの要望や取り組みがあつて、卒業式も現在の形態に改められたのです。

保護者・生徒・教員・市民、四者で考える「大人になる」、「大人にすること」

オープンフォーラム後半は、四つの分科会に分かれての「学び」と「交流」の場となりました。

「大人な18歳になるために」をテーマとした第1分科会では、それぞれの年代の立場から「大人になる」ということについて意見を交わし、「想像力」や「常識」「大人になることの意味」について話し合いました。「見えないものを見る力」「考える力」によって、「18歳選挙権」が今年の夏に迫る中で、高校生本人・家庭・学校で育んでいくこと、援助していくこと



「子どもたちを自立させるサポート」としてのテーマが組まれた第3分科会。在校生発表者の3名は3名とともに、親が想像していない「親への感謝」を口にした。「自立」「個人としての関係の構築」についての親子の考えの相違も現れながらも、それぞれの立場での「気付き」の多いものとなったとのこと。親子の相互理解と相互受容について四つのグループで話し合えました。

第4分科会では「参加型特別公開授業」の感想を交流しながら、10年前の生徒の授業への姿勢と現在の姿勢などを比較し、「授業のあり方・進め方」を交流できました。参加者それぞれが一つの教科にしか参加できなかったため、他の教科の授業展開に関心のある意見が続きました。

開催日以降の「家庭教育」「学校教育」「地域教育」につながる有意義な一日

「18歳選挙権」が今年の夏に迫る中、家庭教育・学校教育・地域教育がいかにして「高校生を大人にしていけるか」を考えていく必要が



【総参加者数】
・保護者／80名
・教員／57名
・生徒／150名
・市民／20名
総参加者数307名

あります。大人が中心となつて準備を進めてきたオープンフォーラムでしたが、子どもたち自身の意見が、オープンフォーラムをさらに豊かなものとしてくれました。

2015年2月の準備会から始まった「オープンフォーラム」。今年度は準備会・実行委員会も含め大勢の保護者のみなさんの主体的な参加がありました。また、当日に大勢の生徒の参加があつたことで、今年度のオープンフォーラムは教育づくりに「高校生の視点」を入れることができました。子どもを中心にして意見の交流があつたこと、生徒・保護者・教員・市民それぞれ、そしてそれ同士がお互いの意見を聞けたことが、次の教育のステージにつながるものだと感じさせる1日でした。実行委員のみなさん、参加されたみなさん、ありがとうございました。

(実行委員会事務局／寺町 健)

柔道部

- 第38回尾張・名古屋・知多新人柔道体重別選手権大会

女子48kg級	優勝	桑原 栞奈 (209 / 一宮市立千秋中学校出身)
	第3位	吉田 美森 (104 / 豊川市立西部中学校出身)
女子63kg級	第2位	小山 華奈 (306 / 豊川市立東部中学校出身)
男子60kg級	第2位	杉浦 冬唯 (102 / 岐阜市立岐阜西中学校出身)
男子90kg級	第3位	原田 秀平 (110 / 笠瀬中学校出身)
- 平成27年度愛知県高等学校新人体育大会 柔道競技名南支部予選会

男子団体	第4位
女子団体	準優勝
- 平成27年度愛知県高等学校新人体育大会 柔道競技

女子48kg級	優勝	桑原 栞奈 (209 / 一宮市立千秋中学校出身)
女子63kg級	第3位	小山 真季 (107 / 豊川市立東部中学校出身)

剣道部

- 平成27年度名南支部1年生大会

男子団体	準優勝
------	-----

男子サッカー部

- 平成27年度愛知県私学祭体育大会 準優勝
- 第3回SEIBIニューイヤークップ・ユースサッカーフェスティバル 優勝
- 平成27年度愛知県高等学校新人体育大会名南支部 優勝

男子バスケットボール部

- 平成27年度第46回全国高等学校バスケットボール選抜優勝大会愛知県大会 一次トーナメント優勝

女子バスケットボール部

- 平成27年度第46回全国高等学校バスケットボール選抜優勝大会愛知県大会 一次トーナメント優勝

- 平成27年度愛知県高等学校新人体育大会名南支部 第6位
- 平成27年度愛知県高等学校新人体育大会 バスケットボール競技 女子の部 第5位

ラグビー部

- 第70回国民体育大会 ラグビーフットボール競技(少年男子) 第3位
愛知県選抜選手 服部 隼大 (310 / 蟹江町立蟹江中学校出身)
- 平成27年度愛知県高等学校新人体育大会ラグビーフットボール競技名南知多支部予選会 優勝
- 平成27年度愛知県高等学校新人体育大会名南知多支部 優勝
- 平成27年度愛知県高等学校新人体育大会ラグビーフットボール競技 ベスト8

女子蹴球部

- 平成27年度愛知県高等学校女子サッカー選手権 準優勝
- JFAガールズ／レディースサッカーフェスティバル 第2位

乗馬部

- 第40回前田記念馬術競技会

LL級障害10	準優勝	米重 友梨 (109 / 扶桑町立扶桑北中学校出身)
	第3位	佐治 采奈 (102 / 蟹江町立蟹江北中学校出身)
LL級障害30	準優勝	豊田 いつき (109 / 清須市立新川中学校出身)
LL級障害70	第3位	早川 令実 (205 / 丸の内中学校出身)
- 平成27年度東海高等学校馬術新人戦 障害飛越競技の部

準優勝	齋藤 実莉 (102 / 田光中学校出身)
-----	-----------------------
- 平成27年度愛知県高等学校新人体育大会 馬術競技 障害飛越

第2位	齋藤 実莉 (102 / 田光中学校出身)
-----	-----------------------
- 平成27年度愛知県高等学校馬術王座決定戦 障害飛越競技

第3位	奥田 圭悟 (208 / 日比津中学校出身)
-----	------------------------

演劇部

- 自主公演「童話裁判」
- 自主公演「水戸黄門」

美術部

- 愛知県私学美術展 絵画・デザイン部門
中日新聞奨励賞 林 柚里 (201 / 稲沢市立千代田中学校出身)

写真部

- 愛知県私学美術展 写真部門
私学協会会長賞 藤原 薫 (103 / 蟹江中学校出身)

その他

- 平成27年度愛知県高等学校新人体育大会少林寺拳法競技 優勝 磯谷 光希 (106 / 供米田中学校出身)
- 平成27年度全国高等学校少林寺拳法選抜大会出場
自由単独演武の部 磯谷 光希 (106 / 供米田中学校出身)
- 平成27年度全国高等学校スケート競技アイスホッケー競技選手権大会出場
松岡 保乃夏 (307 / 笠瀬中学校出身)



Club & Award News



修学旅行

修学旅行を振り返って

2年生普通科・商業科の生徒が3団に分かれ、「沖縄修学旅行」へ行ってきました。直前の雨マークばかりの天気予報に反して、全団ともおおむね天候に恵まれたと言つてよい修学旅行でした。日頃の学校生活を離れ、豊かな自然と文化を兼ね備えた沖縄のさまざまな体験は、生徒たちにとって大変貴重な学びとなりました。

初日は平和ネットワークの方によるガイドで、平和祈念公園、ひめゆり資料館などを見学し、現地ですぐに見聞きすることで平和について考えを深めました。またガマ（洞窟）では、70年前の悲惨な暮らしに思いを馳せ、「平和式典」において、平和な社会を築いていくことを誓いました。2日目のコース別研修では、多少天候に影響された団もありましたが、そんなことはお構いなしに各体験を楽しそうに行っている生徒の様子が印象的でした。2日目夕方から3日目の伊江島体験は、おじい・おばあ様の優しさに触れました。伊江島を案内され、各家庭で料理を作るなどの体験を楽しんでいたようです。いかに充実した時間であったかは、離村式で思わず涙する生徒がいたことでも垣間見ることができました。短い滞在でしたが、「伊江島の子」として過ごした彼らは、別れの際「さようなら」ではなく、「行つてらっしゃい」と送り出され、乗り込んだフェリーからは別れを惜しむように、いつまでも



伊江島の方々に手を振っていました。最終日は国際通りで家族・友達などにお土産を一生懸命見繕っている生徒があらちちらで見受けられました。

行事の成功には、事前準備も欠かせません。生徒たちは国語・社会・英語の授業を利用し、沖縄戦・平和問題を題材に事前学習に励みました。また平和学習・民泊演芸の各生徒実行委員会を立ち上げ、準備にたくさん時間を費やしました。それらの活動は、修学旅行を充実した中身にするための一役を担いました。

一生に一度の高校の修学旅行。生徒はその大切さを理解し、規律もおおむね守ることができました。修学旅行中は、普段の学校での日常を送るように生活することができました。こうした場面から、我々教員にとつて、改めて日常生活の大切さを実感する修学旅行ともなりました。

修学旅行を実施するうえで、お世話になったみなさま、ありがとうございました。

（2年生学年主任／林 雄二）

修学旅行に向けた取り組み

沖縄には美しく豊かな自然、琉球王朝などの独自の文化、伝統があります。もちろん沖縄に行くのですから、沖縄独自の自然や文化に触れてほしいという気持ちもあります。しかし修学旅行は観光旅行とは違います。沖縄は、第二次世界大戦中の日本で激しい地上戦が行われた地です。今なお米軍基地を抱えています。せっかく沖縄へ「修学」旅行に行くのですから、これをきっかけとして、修学旅行でしか感じられないことを感じ、学びを深めてほしいと思います。準備を進めました。

国語・社会・英語の各教科では同朋高校独自の教材を用いて伝統文化・歴史を学習しました。映画「GAMA 月桃の花」を鑑賞して沖縄戦を生きた人々の姿や戦争とはどのようなものかを学びました。

平和委員会の生徒は壁新聞を作り、廊下に掲示しました。またガマ（洞窟）で行う平和式典で読み上げる「平和宣言文」をクラスごとに作りました。これからの未来を担っていく者として、永遠の平和を厳かな雰囲気の中で誓いました。

学習委員会の生徒は「コース」「ディグハリユン」「ワンリハリユン」（沖縄方言で「太陽が笑う、私たちが笑う」）を発行しました。このコースでは沖縄の歴史、文化、国際通りの見所など多方向

面から沖縄を紹介しました。

民泊委員会の生徒は、伊江島の方とより打ち解けるように、メッセージカードと旗の作成をし、入村式・離村式で司会と生徒代表の挨拶をしました。伊江島ではあたたかく迎えてくださった、おじい・おばあや、おとう・おかあと共に、かけがえのない時間を過ごすことができました。

自分の目で見、手で触れて、心で感じる。これは学びにおいて、何よりも大切なことだと思います。今回の修学旅行を通じ、教科書では学ぶことのできない沖縄を知ることができました。修学旅行の経験が、これからの学校生活をより充実させるものとなればと思います。

（2年クラス指導担当／石塚 亜衣）



平和宣言文

毎日ご飯が食べられる。帰る家がある。家族がいる。友達がいる。

しかし、そんな当たり前の日常ができない時代があった。明日生きているのかもわからず、1秒後、家族全員がそろっている保証もなく、日々おびえながら、捕まらないように逃げている人たち。食べ物もなく、逃げる道にはたくさんの死体があった。70年前、日本は過ちを犯した。そう、戦争である。

戦争とは大規模な犯罪であり、殺人行為である。もし1万人が殺されたとき、1万人の死が1回起きたのではなく、1人の死が1万回同時に起きたことではないだろうか。国の権力により強引に戦場にかりだされた兵士たち。国の作戦により巻き込まれた沖縄県民。戦争の犠牲者はこれだけではない。生き残った人たちは、消えることのない痛みや苦痛抱えながら今を生き続けている。

私たちにできることは何なのか考えた。今できることは、当たり前の日常に感謝の気持ちを持って、正しく生きていくことである。それと同時に、この悲劇を後世に伝え、繰り返さないようにしていかなければならない。そのために戦争や平和についてもっと学び、考え続けなければならない。

これから私たちは、学んだことを忘れずに生きていくことを約束し、かつて平和を夢見た人々のためにも、平和な世界を作り上げていくことを誓います。

2015年12月17日 同朋高校2年6組 一同

● 修学旅行日程

〈1日目〉 中部国際空港 ―――> 那覇空港 ――― 平和ガイド各バス乗車 ――― 平和祈念公園 ――― ひめゆりの塔 ――― ガマ ――― ホテル

伊江島フェリー ――― ホテル ――― コース別研修 ――― 本部港 ――― 伊江港 …… 伊江島民泊
〔コース別研修〕

〈2日目〉 ①シーカヤック体験&辺野古平和学習 ②シュノーケリング体験&美ら海水族館
③洞窟体験&美ら海水族館 ④ガンガラーの滝散策&美ら海水族館
⑤海岸トレッキング&美ら海水族館 ⑥基地まーい&美ら海水族館

〈3日目〉 伊江島内研修(民家毎体験学習) 伊江港 ――― 本部港 ――― ホテル

〈4日目〉 ホテル ――― 嘉数高台 ――― 首里城 ――― 県庁前 …… 国際通り散策 ――― 那覇空港 ―――> 中部国際空港



修学旅行感想文

伊江島の家族

202 三宅 城一郎（港南中学校出身）

振り返ってみると、たくさんさんの思い出があります。その中でも心に残ったのは2日目からの伊江島民泊です。伊江島に渡る前は、「知らない人の家に泊まる」という抵抗感が強かったです。自分だけでなく他の友人たちも不安を感じていました。しかし、入村式を終えて、島袋さんの家に到着したすぐあとで不安は杞憂に終わりました。まるで家族のように温かく自分たちを出迎えてくれた島袋さん。おもてなしのひとつひとつ（ギターの弾き語りや山盛りの食事など）が温かく心のこもったものでした。感謝の念とともに2日目が終わわり、3日目は伊江島観光を案内してもらいました。電照菊もとても綺麗だったけど、中でもグスク山から見た景色は「すごい」としか言えないほどの絶景でした（昔ここで戦争があったのだと思うと複雑な気持ちでいっぱいになったけれど）。その後の離村式でもとても泣きました。家族と別れる感じがしたからです。別れの瞬間はつらかったけれど、良い思い出になったと思います。また伊江島に行きたいです。



平和への道のり

207 田口 南美（当知中学校出身）

平和祈念公園で見た平和の礎。そのひとつひとつに大量に書き込まれている名前が戦争の悲惨さを物語っていました。沖縄にはまだまだたくさんさんの遺骨が埋まっていることを講演者の具志堅隆松さんから聞きました。ひめゆりの塔では自分と同じ歳の女の子たちがたくさん亡くなり、やりたいことや夢があったのに戦争によってすべて奪われてしまいました。私は平和ガイドさんに言われて忘れられない言葉があります。それは、「平和への近道は、伝えること学ぶこと」多くの人たちに、ずっとそう思われてきました。でも今の時代はそれでは遅い。行動しなければ変わらない。」というものです。私の平和への考え方が変わりました。考えるだけでなく行動で表すことが大切で、自分たちの手で平和の道を作っていくと強く心に誓いました。



報恩講

11月28日は、真宗（浄土真宗）宗祖である親鸞聖人のご命日です。真宗の教えを建学の精神とする本校は、11月27日に1年生全生徒が参加した報恩講を執り行いました。



報恩講とは、親鸞聖人をはじめ、自分までお念仏の教えを伝えてくださった先輩方に思いをいたし、その恩徳に感謝し報いる御仏事です。同時にそれは親鸞聖人の言葉に出会い、自らの生活を振り返るお勤めでもあります。今年度の報恩講は、各学科の代表生徒による献花、音楽科生徒たちによる「三帰依文」が勤められたほか、養照寺より一柳智史様にお越しいただき、共なるいのちについてご法話をいただきました。

1年に一度、お念仏の教えに出会い、自分を見つめ直し、「同朋」という他者と認め合い、共に生きていけるご縁となれば幸いです。（宗教主任／柏原 良教）



職業と進路を考える集い 1年生

キャリア教育の一環として、10月16日に、1年生を対象として「職業と進路を考える集い」を行いました。例年は12月に実施されるキャリア教育の一つですが、今回は2年生普通科の系統選択を見据え、早期に実施しました。

講師の方々には、その仕事に就くに至った経緯、仕事の内容ややりがい、苦労、必要な資格や勉強など高校時代に取り組むべきことなどについてお話しいただきました。生徒たちは熱心にメモを取りながら、自分が将来どのような分野に進みたいかを深く考える時間を持つことができました。

（1年生進路指導担当／犀川 桂子）

音楽科 第47回卒業演奏会

1月8日（金）、電気文化会館内ザ・コンサートホールを会場に、3年生音楽科生徒による「第47回卒業演奏会」を実施しました。この演奏会には、事前の厳正なるオーディションで選ばれた電子オルガン・ミュージカルアルトサクソ 打楽器・声楽フルートチェロピアノの各専攻の生徒が出演しました。

舞台裏ではどの生徒も緊張の表情をしていましたが、いざ本番になるとそれぞれ演奏家として自分の世界を表現していました。若さあふれる演奏に対して、ご来場いただいたみなさまよりは惜しめない拍手をいただきました。同朋高校音楽科で3年間学んだことを糧に、これからの人生を歩んでほしいものです。

（音楽科／鈴木 乃維）

オーストリア修学旅行へ出かけます

3月4日（金）から10日（木）の予定で、2年生音楽科生徒がオーストリアのウィーンやザルツブルクへ修学旅行に出かけます。モーツァルトやベートーヴェンなど多くの著名な作曲家や演奏家を輩出した芸術の都へ出かけ、まさに「本場の空気」を味わってきます。また、平和学習の一環としてナチス強制収容所も訪れます。



商業科 マナー講座・ライフプランニング学習

昨今、「賢い社会人」「賢い消費者」の育成が求められていると言われます。本校商業科は、こうした社会からの要望を受け、「最前線」で活躍する社会人から学ぶ機会を多く取り入れた教育を実践しています。

マナー教育の一環として、化粧品メーカー株式会社アルビオンと共同授業を実施しました。同社は、化粧品の対面販売に力を入れており、従業員に対する接客マナー教育を徹底していることが知られています。今回はまもなく卒業する商業科3年生を対象に、あいさつ、姿勢、おじぎ、自然な笑顔といった点に力を入れた指導をいただきました。

その後、男子グループと女子グループに分けた実習に取り組みました。最近、男性に対するスキンケアの必要性が話題に上がり、男性用基礎化粧品も多く販売されています。そこで、男子生徒は「正しい洗顔法と日常の手入れ法」を学びました。一方、女性雑誌などでは、「流行のメイク法」特集がよく取り上げられています。そこで女子生徒は、流行ではなく「人から好感を持たれるベースメイク法」を学びました。こうした共同授業を通し、「マナー」として周囲に不快感を与えない人間へと成長する一助となったのではないのでしょうか。

また、消費者教育の一環として、商業科3年生を対象に「ライフプランニング学習会」を実施しました。昨年同様、ソニー生命株式会社のライフプランナーにお越しいいただき、夢のような贅沢な人生設計のシミュレー



ション後、専門家のアドバイスをもとに生活を見直しました。その結果、大きな負債を抱えることなく、また、やみくもに生活を切り詰めることもなく、家族旅行や一戸建ての取得といった夢を実現しながら、幸せな生活を送るシミュレーションとなりました。なかには、多額の貯蓄を活用し、マンション経営に臨むグループが現れるほどでした。

生徒たちは、社会で活躍する社会人の姿を自分の目で見ることで、将来の自分の姿を重ねているようです。今後も本校の教育活動にご理解いただける企業と提携しながら、賢い社会人・賢い消費者を育成する教育に力を入れていきます。

（商業科主任／本田 裕規）